

第 1756 回例会報告

令和4年9月22日(木)曇

会長告知

連絡伝達事項

米山、ロータリー財団月間に寄せて

会長 萩田 均

諏訪グループ事務局幹事の望月さんよりLINEがありました通り、10月23日(日)には諏訪グループのポリオデー事業の一つのチャリティーゴルフがあります。望月副幹事を中心に私たちクラブも吉澤ガバナー補佐の面目を大切に、大いに参加をお願いします。詳細については事務局より連絡いたします。

10月18日予定の1760回例会、3クラブ合同例会はコロナ過(レベル5)のため、中止になりました。ホストの岡谷RC林会長より連絡をいただきました。

10月16日(日)は諏訪RCとロータリーデイの共



同奉仕事業を実施します。同日は湖浄連及び湖周の清掃日にあたり、下諏訪中学校と下諏訪社中学校の生徒さん、つつじが丘学園の学童を、そしてガールスカウトを

お誘いして、ソーシャルディスタンスを取り、ともに清掃活動を実施します。清掃活動終了後はセレモニーと意見交換会、お弁当の配布と諏訪湖にふれる活動、子供たちとボートに乗船し、ヒシ取り船の見学をして解散予定です。早朝ではありますが、清掃例会の参加をよろしくお願いいたします。また、諏訪湖RCのウインドブレーカー着用もお願いします。

昨日9月21日は臨時理事会を開きました。深い会議ができたと思います。学術的検証の必要性和、

今後の検証をすべきこと、そしてヒシ取りの有用性について意見の一致を見ました。ヒシ取りについては民間の力と、5月から7月の芽吹きของ時期に積極的活動が、必須です。すでにヒシ取り船の購入を個人的に実施しており、諏訪湖ロータリークラブ諏訪湖浄化基金の使用による購入は必要としていないことを受け、本年度は社会奉仕委員会の事業費により、諏訪湖ロータリークラブ及び他団体との連携により、多くのヒシ取り事業を実施することにしました。購入をするための基金取り崩しはしません。諏訪湖浄化基金内規にありますとおり、基金の用途は諏訪湖浄化に寄与する全ての営みに該当すると記載されており、今後も大いに使用していきたいと存じます。

本日は平山職業奉仕委員長の、職業奉仕とはパート2の卓話をいただきます。私も職業奉仕の時、また、コロナ以前の職業奉仕委員会で行っていた夜間例会や車座の討論会は、今、開催できる状況にはありませんが、この卓話をきっかけとして、それぞれに職業奉仕について掘り下げていただきたいと思います。

また11月5日6日と地区大会があります。そして10月11日にはロータリー財団と米山の月間があります。様々な事業が目白押しです。よろしくお願いいたします。

◇幹事報告◇

【受領文書】

- 1)ライラの報告書が届きました。
 - 2)コーディネーターニュースが届きました。
 - 3)諏訪県青年会議所より、諏訪圏フォーラムのお礼状が届きました。
 - 4)ハイライト米山が来ました。
- いずれもご覧になりたい方は事務局までご連絡ください。ご連絡いただければPDF化してメールなどでお送りします

第1756回例会

職業奉仕について考える2

職業奉仕委員長 平山隆勇

担当 雑誌広報委員会

本日は前回に続き 平山隆勇職業奉仕委員長の卓話をお聞きしました。大変大切な話にもかかわらず機器の不調で聞きづらい例会になってしまいました。原因は、会場から中継のときコンピュータのマイクと会場音響がハウリングを起こすためだと思います。次回より徐々に解決策を試みていきます。

そのため平山隆勇職業奉仕委員長に無理を言って短縮版の原稿起こしを依頼しました。ありがとうございました



職業奉仕について考える2

本日のお話しはロータリー情報研究会発行の「ロータリーの基礎」(改訂 第11版)を参考にしています。この書籍はRI Web サイト、ロータリーの友、ロータリー米山奨学会、ロータリー章典、ロータリー財団章典、2019年RI定款・細則と標準ロータリークラブ定款を参考資料として作られておりロータリーの公式な資料と考えて良いと思います。

職業奉仕の概念

「ロータリーの目的(The Object of Rotary)」は、ロータリーの存在目的とロータリアンの責務について記した哲学的な声明です。職業奉仕は「目的」の第2項を土台としており、この項で、ロータリアンは次のことを奨励し、育むことが求められています。

- 職業上の高い倫理基準
- 役立つ仕事はすべて価値あるものという認識
- 社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものとする

職業奉仕の実践方法

職業奉仕はどのように実践できるでしょうか。

例会で、各会員が自分の職業について話し、互いの職業について学び合う

地域社会での奉仕プロジェクトで職業スキルを生かす

高潔さを重んじて仕事に取り組み、言動を通じて模範を示すことで倫理的な行動を周囲に促す

若者のキャリア目標を支援する

専門能力の開発を奨励し、指導する

高潔性と倫理

ロータリーでは、高潔性と高い倫理を重視しています。その中でロータリアンによって生み出されたのが、「4つのテスト」と「ロータリアンの行動規範」の2つであり、職場や生活のあらゆる場面で倫理的行動を実現するための指針となっています。

スキルと職業

職業とそのスキルの重要性を認識するロータリーには、多様な職業や経験を持つ会員がおり、地域社会のさまざまな職業、ビジネス、団体とのつながりを生かした活動が実践されています。会員には、職業スキルを奉仕に生かし、自らの職業をクラブで代表するとともに、職場においてもロータリーの理念を实践する責務があります。

行動しよう

- ロータリー行動グループに参加する
- ロータリー親睦活動グループに参加、または新たにグループを結成する
- 奉仕プロジェクトで職業スキルを活用する
- 地区リソースネットワークで専門知識を生かす
- 職業に関連するロータリーの友情交換に参加する

ロータリー行動グループ

「ロータリー行動グループ」は、特定の専門分野における知識と経験を備えた国際的なメンバーから成る、独立したロータリー関連グループです。グループのメンバーは、人道的なインパクトを高めるというロータリーの優先事項に沿って、各自の知識と熱意を生かし、インパクトのある奉仕プロジェクトを計画・実施するためにクラブと地区を援助します。各グループは、RIの方針に沿いながら、独自の管理体制と会員組織をもち、その活動を監督しています。

ロータリー行動グループに参加するには

- 地区補助金やグローバル補助金を用いたプロジェクトを含め、奉仕の計画と実施に関して専門家のアドバイスを受ける。

- ロータリー内外のプロジェクトパートナーを見つける。
- プロジェクトのための資金調達やリソースに関するサポートを受ける。

ロータリー親睦活動グループ

ロータリー親睦活動グループは、共通の趣味、関心、スポーツ、職業を土台としたロータリーメンバーの集まりです。交流を通じて、専門知識・スキルをさらに磨き、海外に友人をつくれるだけでなく、特技を生かした奉仕活動を実施することもできます。

地区リソースネットワーク

地区リソースネットワークとは、ロータリーの重点分野、グローバル補助金、プロジェクト計画などの分野にくわしい、主に地元のロータリアンで構成される人材ネットワークです。

地区内のリーダーと協力して地区リソースネットワークの拡充に努めており、ネットワークのメンバーとなれるような専門知識を有する会員の登録を奨励しています。

クラブがプロジェクト計画と実施における支援を必要とするとき、これらの人たちの専門知識がとても役立つでしょう。

職業研修チーム (VTT)

職業研修チーム (VTT) は、実地参加を通じて職業奉仕を行う機会です。職業の専門知識やスキルを有するメンバーで構成されるチームは、訪問先で知識を深めたり、研修を実施したりします。また、現地

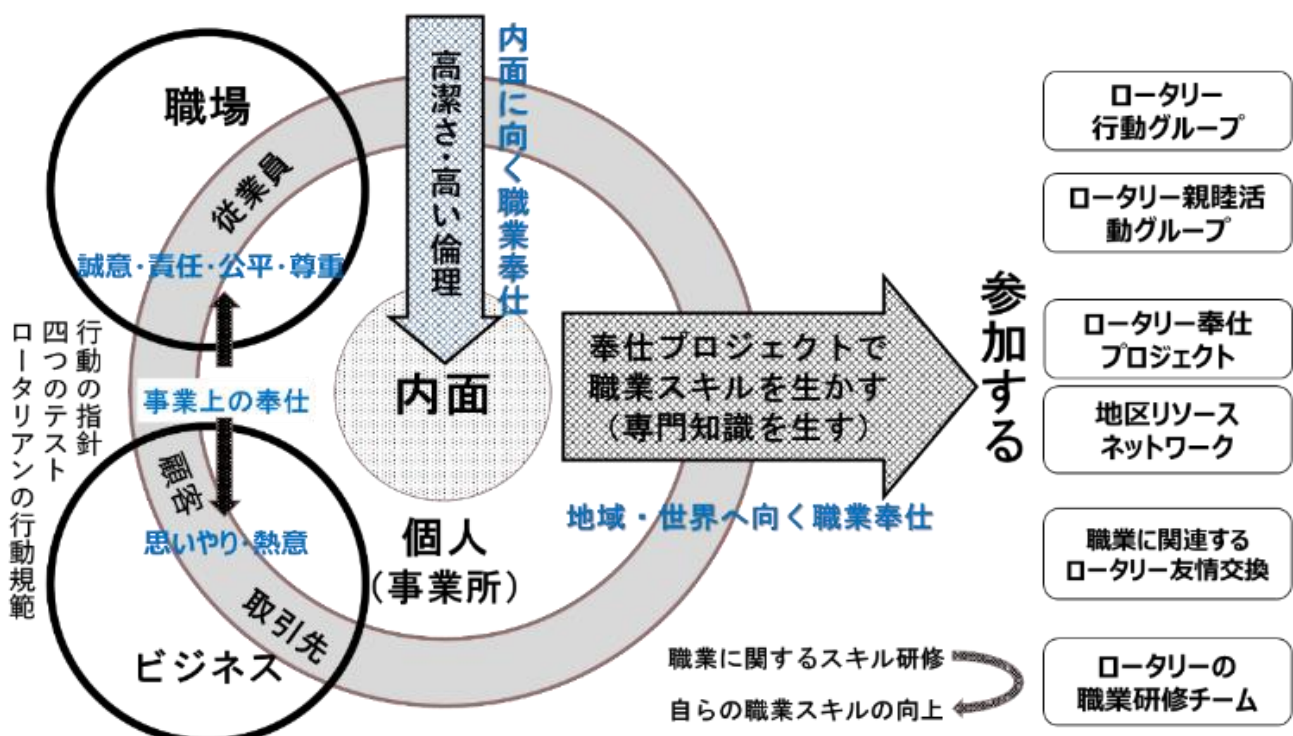
で、地域社会の人々が自力で問題を解決できるようになり、持続的な変化がもたらされます。ロータリアンは、VTT への参加を通じて、文化交流や国際親善だけでなく、訪問の後にも持続する影響を残すことができます。

チームの活動がロータリーの重点分野のいずれかに該当し、持続可能性と測定可能性の要件を満たしていれば、ロータリー財団のグローバル補助金を VTT に利用できます。(下図参照↓)

職業奉仕(内面に向く奉仕と地域と世界に向く奉仕)

職業奉仕は私たちが昔からよく聞かされてきたシェルドンの提唱した奉仕理念、『最もよく奉仕する者、最も多く報いられる (He profits most who serves best) 』即ち職業倫理に基づいた合理的経営が最も大切なものと考えてきました。一方RIでは職業スキルを生かした地域や世界への奉仕も職業奉仕の一つの形であると捉えています(むしろ、こちらが大切と考えています)。

従って職業奉仕には自己の内面に向けて、高い倫理観や高潔さを求め、その心(奉仕の心)で自分の事業やビジネスを行い、世の中に貢献するという職業奉仕(内に向かう職業奉仕)と、ロータリー行動グループ等の関連グループや、各種奉仕プロジェクトに自分の職業スキルを生かす職業奉仕(地域や世界に向けた:外に向かう)の2つがあるということになります(下図)。



の人びとや地域全体の知識やスキルを高めること

RIは後者を重要視し、日本のロータリーの多くの

会員が前者を支持しています。元 RI 理事で 2830 地区 PDG 黒田正宏 氏によると、年度によって RI 会長の職業奉仕に対する比重の置き方に相違があったと述べています。その中で「私の年度は職業奉仕委員会を休みたい」と発言したある会長は、黒田氏の反対意見に対し、「職業奉仕の重要性は否定しない。ただ最近の委員会の報告をみていると、経費をかけ続けるほどの内容ではない。理念的なことは、もう十分にロータリアンの先人たちが成果を積み重ねてきていると思う。私は職業奉仕のクラブでの具体的なプログラム開発や実践を望んでいる。」と答えたそうです。RIの本音が現れていると感じます。

日本

「RI 会長賞」の中から職業奉仕活動が消え、「次年度のロータリーの目標」の中から「職業奉仕を強調する」目標も無くなりました。

人道的支援にエネルギーをかけすぎて、会員の職業奉仕につ



RI

職業奉仕が大切なことは分かっていますよ。理念的なことは先人達が十分に成果を積み重ねてきています。時間的にも、スタッフにも、財政的にも余裕がない。クラブでの具体的職業奉仕プログラム開発や実践を望んでいます。



私見ですが、RIは会員個人が職業倫理を高めても、どんなに高潔性を獲得しても、世界のロータリーへの評価は得られないと考えているように思われます。ポリオプラスの様な世界から評価される大型プロジェクトこそ、国際ロータリーへの評価を高めると考えているのではないのでしょうか。

まとめ

シェルドンがロータリーの奉仕理念として提案した「最もよく奉仕する者最も多く報いられる」(第2標語)を、長い間「職業奉仕」の真髄として大切にしてきた多くの日本のロータリアンは、お金とマンパワーをもって人道的慈善奉仕活動に邁進する今のRIの方針(小林聡一郎氏の投稿による)に何かしっくりこない

と感じているかもしれません。相対的に「職業奉仕」に対する比重の置き方が軽くなっていることに、寂しさを感じている方も少なからずおられると思いますが、世界のロータリアンの考え方の趨勢は無視できません。

一方で、ロータリーの目的にある ①職業上の高い基準を保つ、②役立つ仕事はすべて価値あるもの、③ロータリアン各自の職業を高潔なものにすることによって社会に奉仕する(以上目的の第2項)、ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および社会生活において、日々奉仕の2念を実践すること(目的の第3項)をみれば、個人の職業奉仕はロータリーの核心であることは明らかです(RIも職業奉仕の大切さは十分に分かっていると思います)。私たちは心の中に燃える職業奉仕のともし火を決して消してはならないと重めます。

また、各種クラブ奉仕活動に職業スキルを生かすこと(先ほど外に向かう、地域・世界に向ける奉仕と表現しました)はたくさんあることを知りました。今後参加を検討する価値は大いにあると思いますが、なかなかハードルが高く、直ぐ参加できるクラブ、会員は限られるのではないかと思います。個人の力で、毎日でもできる奉仕はやはり自分の仕事自体で社会に奉仕することでしょうか。継続は力なりと言われますが、これだけでも大変な努力が必要であることは言うまでもありません。

職業人個々の職業奉仕とは

- 自分自身を律し、取引先や顧客へ奉仕を第一に職業(事業)を営み、更なる奉仕の理念を養う。その中で学んだ心や経験・技術(スキル)を生かして社会奉仕活動に参加する。
- 様々な奉仕プロジェクト活動を通じて学んだ心を一人一人が職場に持ち帰り、その奉仕の心で仕事(事業)を行い、自分の職業を通じて世の中(社会)に貢献する。

